



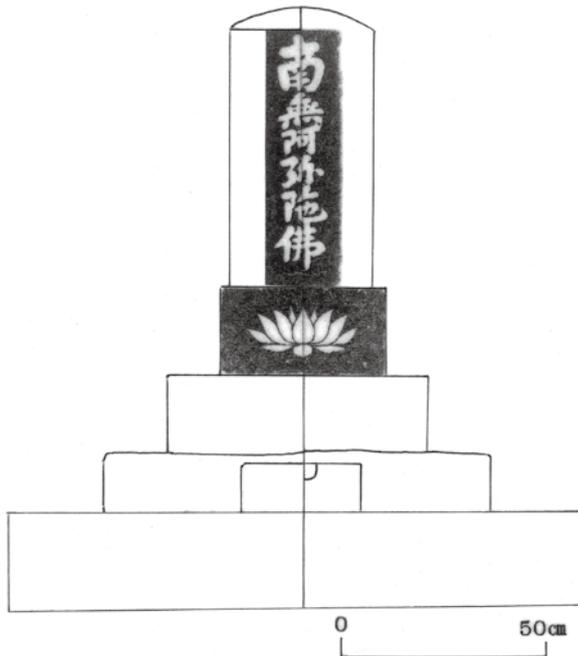
資料見聞

災害と石造物 — 土佐市宇佐萩谷の地震碑 —

岡本 桂典

東日本大震災から早2年の歳月が流れていきました。平成25年3月12日付けの『高知新聞』朝刊には、東日本大震災で亡くなられた方15,882人、行方不明の方が2,668人と記されていました。東北地方太平洋沖地震は、日本観測史上最大の地震でした。

さて、一昨年のも、京都・清水寺貫主森清範先生が揮毫された字は「絆」という字でした。森清範先生は、石造文化財研究所刊の『石造文化財』第4号（平成24年12月25日）に「大災害と記録」という一文を特別に寄せられました。その中で被災した枯れ松で、像高3mの大日如来坐像を京都伝統工芸大学の学生諸氏に制作依頼し、台座部分は被災地の人々にノミを打っていただいたことが書かれていました。その中



土佐市宇佐萩谷 安政の地震碑実測図

に、「たずさわった人々が心から冥福を祈り、亡くなった方と心からつながり、連帯を求める「絆」そのものでした」という一文がありました。私たち日本人は、過去にも大災害を受け、悲しみの中から立ち上がりました。「しかも、災害の惨状を後世に伝えようと

文書や石造物に記されている」と先生は述べられています。映像という記録方式のない時代、災害の記録は口伝や文書、そして石造物

などに残されていきました。各地に残る史料や石造物などが過去の人々の未来への思いやメッセージを伝えてくれます。

高知県の中央部、太平洋を望む土佐市宇佐萩谷を流れて浦ノ内湾に注ぐ小河川萩谷川の右岸に地震碑が1基静かにたたずんでいます。この地は、土佐市高岡から塚地峠を越えて宇佐に至る遍路道でもある旧往還道です。碑は基礎が94×94cmで高さ138cm、基壇が61×61cmで高さ18cm、請部が38×37cmで高さ20.5cm、円筒形状の身が高さ67.5cm（頭部が5cm）で直径35cmです。総高約110cmとなります。供養具は、27.5×19.5cm、高さ11cmで、径8cmで深さ4cmの円形の孔が穿たれています。深くないので線香立てと考えられます。別に花立てが存在していたと思われる。請部は、上面を塔身の径に合わせ円形に穿ち身を安定させています。正面に蓮華を刻しています。身部中央に「南無阿弥陀佛」と刻され周りには、左廻りに長文の銘文を刻しています。

この碑の造立背景については、『真覚寺日記』に記されています。この碑は一般の人は説明がないと墓石と思い込んでしまうかも知れませんが、書写した経典を埋経しており経塚でもあるのです。つまり経塚の標識でもあり、供養塔でもあるのです。

企画展

命の碑^ひ

―土佐の地震・津波碑―によせて

平成25年4月27日(土)～6月30日(日)

岡本 桂典

◆はじめに◆

「災害は忘れたころにやってくる。」幼い頃、よくこの言葉を聞かされた方は多いと思います。そして、海岸や河口で地震を感じたらすぐに高いところへ逃げることを口をすっぱくして忠告されました。その後、南海地震を経験した方から、津波は海だけではない山津波にも必ず注意することを聞かされました。地震碑にもこれらに関することが記されているものがあります。地震碑をみてみると、小さい頃からの防災教育の重要性を感じます。

戦争を経験した方は、大災害に巻き込まれると、これは戦争と同じだ、ということ言われることがあります。それは、命が危機にさらされていることを意味しています。

2011年3・11以降、地震や津波に対する関心が非常に高まっています。この東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）は、貞観地震（869年7月9日）という歴史上の大地震を私たちに想起させました。東日本大地震を機に

歴史上記録されている地震や津波の記録が見直されることになりました。

今回の企画展では、日本石仏協会理事を努められている岡村庄造氏により当館に寄贈していただいた地震碑などの拓本を中心に、当館で撮影した写真も併せ展示を予定しています。地震碑の原寸大模型も展示の予定です。

◆地震と石造文化財◆

「石造文化財」という言葉を、近年よく耳にするようになりました。この用語について坂詰秀一氏は、「仏教考古学」と「石造文化財」（『石造文化財』第1号、2001）の中で以下のように述べられています。

「石造文化財」とは歴史的な石製造物物のことを指す慣用的な用語である。「埋蔵文化財」、「無形文化財」などの行政用語を想定しての呼称が広く用いられているようになった結果、「石造文化財」があたかも学術用語であるかのような錯覚をもって研究者間で用いられているのであろう。この「石造文

化財」は、「石造文化」と称する慣用表現を生み普及しつつある。「石造文化」にしても「石造文化財」にしても、

一般の人々にとつて判り易い。石で造られたものといえ、ただちにそれを連想することが可能であり、ヒトが造りだしたモノ、ヒトの作品として理解される。」と端的に述べられています。次に「碑」という用語についてもみておきたいと思います。碑については、かつて「歴史資料としての碑と板碑」と題して（『土佐史談』第188号）土佐の碑特集号（1992年）に述べたことがあります。碑は、一般的には一様に石碑をさしていると理解されています。そこで、碑という用語は、石の表面に碑文が刻されたものの総称として用いられているといえます。そこで、

今回の企画展では一括してこの「碑」という名称を用いることにしました。今回紹介する地震碑や津波碑と呼ばれるものは、災害史を物語る貴重な石造文化財で、地域では良く知られた資料です。近年これらを調査に來られる方が増えたそうです。

これら災害に関わる石造物には仏教的な反映としての形状をなすもの、方柱の形状をなすもの、自然石を利用した自然石状のもの、神社の玉垣など諸々の形状のものが存在しています。それらには、必ず銘文が刻されています。

巻頭1頁に紹介した萩谷地震碑の身部の銘文を紹介しておきます。

「南無阿弥陀佛

安政元甲寅歲十一月五日申の刻大地震日入／前より津浪大爾溢れ進退八九度人家漂流／残る家僅六七十軒溺死能男女宇佐福島を／合而七十餘人なりき都て宇佐の地勢ハ前高く／後低く東ハ岩崎西者福島の低ミより汐先逃／路を取巻故昔寶永の変丹も油断の者夥／敷流死能由今度も楚能遺談越信し取あへ／須山手へ逃登る者皆恙なく衣食等調度し又ハ／狼狽て船尔のりなとせるハ流死の数を免連須／可哀哉其翌日ハ御倉開けて御救米頂戴し／凍餓尔至るものなく誠二難有 御仁沢下り希れ／ハ後代の変丹逢ふ人必用意なくとも早く山／の平らなる傍尔岩なき所を扱ひて逃よ可し且流失／能家材衣服等拾ひ得し人暫時内福尔似たれとも間／もな流行の悪病ニ染ミ悉皆なくな利しを眼／前見聞し多ると越告残し殊ニ両変溺死の人能／菩提越用ん為尔と

衆議志て此碑を立る／も能と云爾
安政丁巳十一月鹵郵助助識」

※〔 〕は銘文の改行を示しています。



土佐市萩谷地震碑の身部拓本

身部の下の請部にも銘文が刻されています。

(側面銘文)

「世話人

緑屋

傳平

(蓮華)

久木屋 菊右工門

梶和屋

源次郎」

と刻されています。銘文によると、「安政元甲寅年の十一月五日申の刻に大地震が発生。それにより発生した津波

が八、九度襲い、残る人家は僅かに六、七十軒で宇佐・福島

合わせて死者七十余人として

いる。宇佐は前が高く、後ろが

低く、東西の低地より

汐が入り込み、逃げ道

を取り巻く故、宝永地震

(宝永四年(1707)十月四

日、午後二時ころ発生)

で多くの人が流死したというとの遺

談を信じて、取りあ

えず山手に逃げ登つ

たものは恙なく。衣

食を整えたり、慌て

て船に乗った者は、

津波の犠牲になった。

翌日には、救援米が

出されて有り難いこ

とであった。後代の

人、必ず用意なくても

山の平らな傍に

岩がなきところを撰

び逃げよ。家財や

服を拾った人は一時

は得だろうが、間

もなく疫病に罹り悉

く死を眼の前にみ

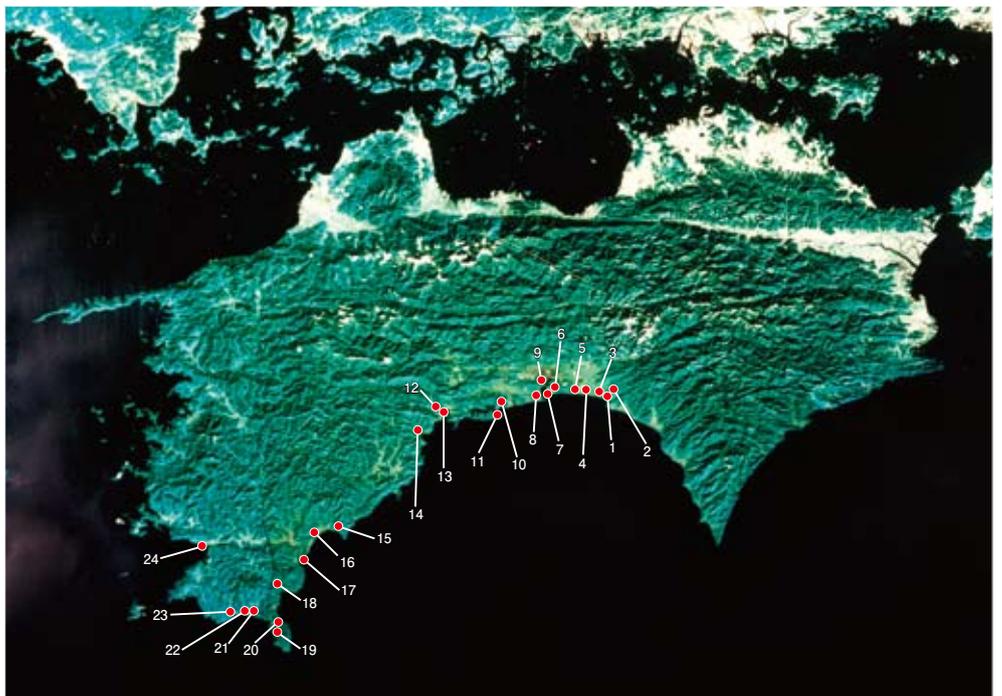
たことを言い残す。

二つの地震・津波

の溺死者の人の菩提

を弔うために衆議

してこの碑を建てた。」とあり、安政



土佐の主な地震・津波碑の分布

の特徴については4頁の地図を参考に
していただければわかりやすいかも知
れません。

地形の分かる写真にも地震・津波碑
を点として落としてみました。地震・
津波碑は、現在のところ香美市夜須町
以西に分布していることがわかります。
これは土佐の地形の特徴を現していま
す。南海地震の時は東が上がり西が下
に沈むといわれていますが、その特徴
の一つを示しているとも思われます。

高知市の仁井田神社の玉垣の地震碑
について最後に述べておきたいと思
います。玉垣が地震碑となっているも
のは、南国市の琴平神社にもありま
す。仁井田神社の入り口の玉垣の支柱に

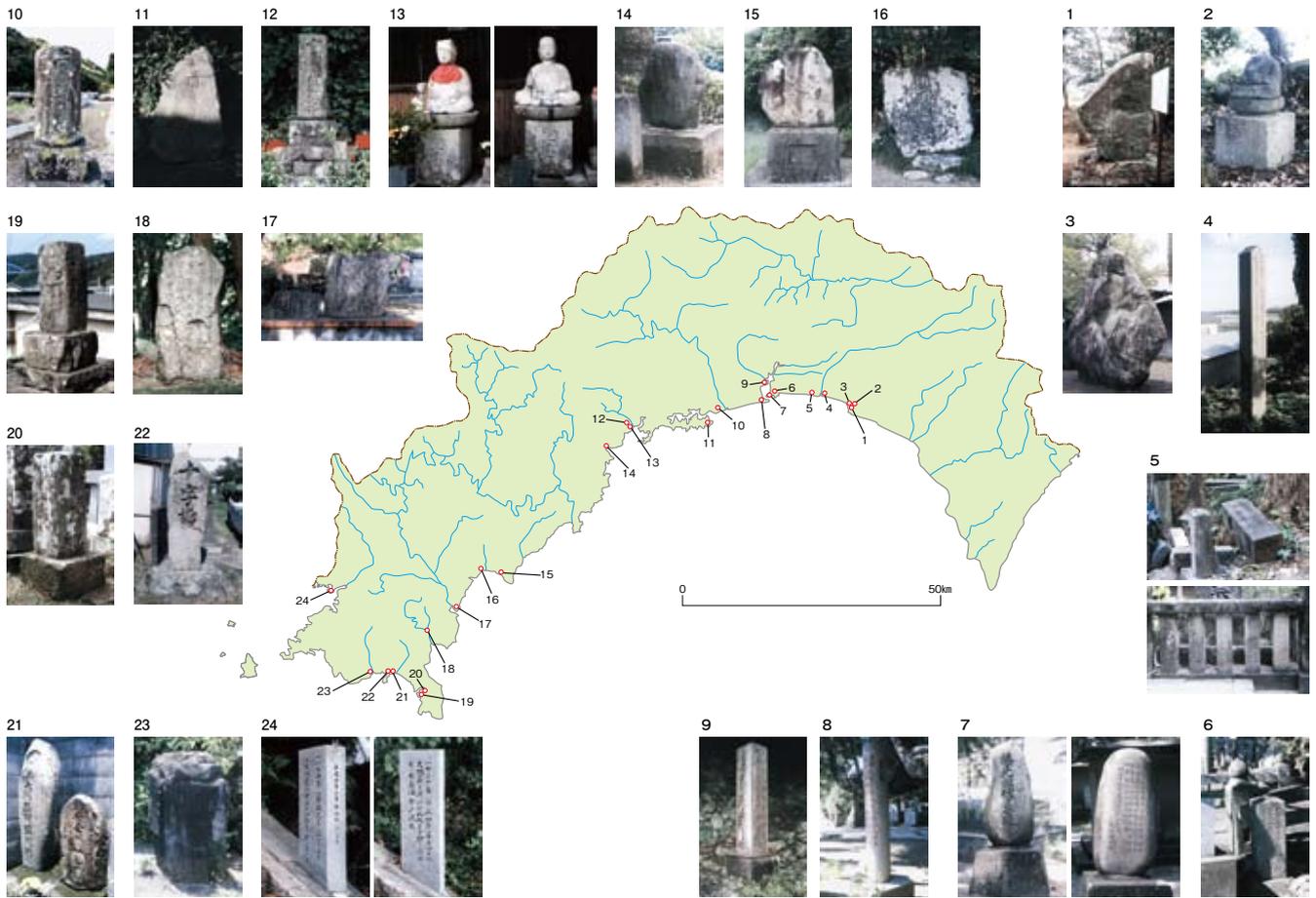
「嘉永七年(1854)十月末より汐
が狂い、十一月四日朝すなみが入つ
た。五日夕方に大地震があり間もなく
津波がくる。そして汐が狂うときは油
断はしてはいけない」と刻しています。
なお次の頁に主な地震・津波碑の分
布と所在地を記載しました。

西村耕助識とあります。

地震碑は、社寺境内に造立されてい
る場合がよくみられます。これは徳島
県の例とも一致しています。地震碑な
どの立地をみてみると海岸の近くの河
川流域にみられる特徴があります。こ
れは、津波が河川を逆流してくること
を意味しているとも考えられます。そ



仁井田神社の玉垣 高知市仁井田



土佐の主な地震・津波碑と分布
(写真は岡村庄造氏寄贈写真による)

番号	地震碑名	所在地
24	大島鸚神社の潮位碑	宿毛市大島
23	下川口春日神社地震碑	土佐清水市下川口下川口浦春日神社
22	三崎十字橋碑	土佐清水市三崎浦四丁目
21	三崎浦震災供養石仏2基	土佐清水市三崎浦一丁目
20	清水中浜峠池家墓所地震碑	土佐清水市中浜中浜峠共同墓地
19	清水中浜地震碑	土佐清水市中浜(ジョン万次郎記念碑後)
18	五味天満宮地震碑	土佐清水市下ノ加江五味天満宮
17	下田水戸住吉神社碑	四万十市下田住吉神社
16	入野加茂神社震災碑	幡多郡黒潮町大方入野東浜加茂神社
15	伊田海岸震災碑	幡多郡黒潮町大方伊田真磯
14	久礼熊野神社震災碑	高岡郡中土佐町久礼熊野神社
13	津野神社地藏台座	須崎市青木町津野神社
13	須崎市大善寺地藏台座	須崎市西町一丁目
12	寶永津浪溺死之塚碑	須崎市西糺町大善寺墓地下
11	青龍寺国家繁栄碑	土佐市宇佐町竜青龍寺
10	宇佐萩谷名号地震碑	土佐市宇佐町宇佐萩谷
9	北高見宝蔵寺跡題目地震碑	高知市北高見町(通称高見山)宝蔵寺跡
8	浦戸稲荷神社地震碑	高知市浦戸稲荷神社
7	種崎久保家墓碑	高知市種崎県立種崎千松公園墓地
6	仁井田神社玉垣地震碑	高知市仁井田宮内仁井田神社
5	琴平神社玉垣地震碑	南国市里改田琴平神社
4	上岡八幡宮地震碑	香南市野市町上岡八幡宮
3	岸本飛鳥神社惣塔	香南市香我美町岸本飛鳥神社
2	西山観音寺地藏台座	香南市夜須町西山
1	夜須観音山碑	香南市夜須町坪井観音山

平成24年度

高知県立歴史民俗資料館休館中の工事について

学芸課・事業課

高知県立歴史民俗資料館は、平成3年（1991）5月に開館、建物や施設は20年以上経過しています。歴史館は、県内唯一の公開承認施設として適切な収蔵環境の確保が必修となっておりますが、設備などの老朽化により、収蔵保存環境の確保が急がれていました。そこで平成24年12月24日から今年の平成25年3月31日まで休館させていただきました。収蔵施設の温湿度管理の改善のため工事を進めています。また他の改修もこの期間中に行ないました。

休館中は、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。4月1日より平常通り開館いたします。皆様にはご理解とご協力を頂きありがとうございます。

既存収蔵庫空調設備改修工事

博物館施設の心臓部といわれる各収蔵庫系統の空調設備を新しくする改修を行ないました。空調設備を改修する際には、学芸員は文化庁美術学芸課、高知県文化生活部文化・国際課、高知県教育委員会文化財課、建築課などとの協議を重ね、さらに独立行政法人国

立文化財機構東京文化財研究所の検査を受けます。その後、1年間にわたり空調の状態を確認していきます。左に機械室の写真を紹介しました。人物が写っていますので、その大きさがわかると思います。



1階 機械室収蔵庫系統新しい空調機

緊急改修及び雨漏り修繕工事

建物が老朽化すると台風の時など思わぬ所から水の侵入を受けることがあります。また、建物が岡豊城跡の二ノ段と接している部分などは、雨水が多く流れるところです。博物館にとって水は大敵です。前もって改修を行ない、

排水を良好にすることで、建物が常時高湿度の影響を受けないようにすることも大切です。これは総合的防虫管理にもつながります。

飛散防止フィルム貼付業務

歴史民俗資料館においても、3階・1階の壁付きの大型展示ケースに飛散防止フィルムを内側より貼りました。展示資料はすべて撤去しての工事となりました。2階の展示室は、リニューアル時にすでに貼付けが完了しています。この工事も東京文化財研究所の指導を受けて行ないました。



1階企画展示室壁面ケースに貼られたフィルム

旧民家修繕業務

登録文化財旧味元家住宅主屋は茅屋根を平成20年に葺き替えましたが、竹に虫が入り、茅の重みなどで軒が下がってきました。そこで、次の葺き替えまでの応急処置として修繕を行ないました。見栄えは悪くなりましたが、安全確保と文化財保存のために補助柱を立てて屋根を支えています。



補助柱をとりつけた旧味元家住宅主屋

入口歩道修繕業務

正面入口のタイル舗装は、開館から20数年経過し、表面に水ゴケが付着し雨の日には非常に滑り易い状態となっていました。そこで今回このタイル舗装を撤去してアスファルト舗装とし、お客様の安全を確保しました。

考古

東京都大田区池上本門寺の
芳心院墓所

平成25年1月末、久しぶりに学生のころよく調査に通った友人と、羽田空港から雪が残る池上本門寺に向かいました。池上本門寺は、山手線五反田駅と京浜東北線の蒲田駅を結ぶ東急池上線の池上駅近くにありま。池上本門寺は日蓮が、弘安5年(1282)10月13日に61歳で入滅された地です。本門寺には、紀伊徳川家をはじめ、関係する大名家の墓所があります。お万の方の孫芳心院(紀州徳川頼宣の娘、鳥取藩主池田光仲の妻)の墓所は、万両塚と呼ばれ特に有名です。宝永5年(1708)に没した芳心院の墓所は、造営に1万両はかかったであろうといわれるところから「万両塚」の呼称があります。



芳心院殿墓所 大田区池上本門寺永壽院

近世の日蓮宗大外護者として知られる芳心院の墓所には、生前に寿塔として建立された宝塔がありま。後に墓塔となり、塔の周辺には四周を巡る一辺26mの塚があります。修復に伴い発掘調査がなされています。大名墓の調査は今注目されています。(岡本)

歴史

新たに見つかった
長宗我部盛親の文書

昨夏、県内の個人の方から、長宗我部元親の四男・盛親が発給した判物(公文書の種類)をご寄贈いただきました。

内容は、盛親が浦戸城周辺で屋敷地を与えたにもかかわらず、一向に引越しをせず、屋敷の建設を行わない國澤彦衛門を厳しく叱責したものです。

この時期、豊臣政権からの軍役として、朝鮮出兵のための大船建造や修復、用材の供出、乗組員である水主の派遣などが求められていました。内政の一部を父元親から任せられるようになっていた盛親は、何としても海沿いの出撃拠点であった浦戸の支配強化を急ぐ必要に迫られていたのです。従ってこれまで各地に散らばっていた家臣のなかから、特に有能な者を急遽浦戸に集める必要がありました。

長宗我部氏の家臣団には、通称「一領具足」と呼ばれる領地に根付いた地侍層が多かったといわれています。領地から切り離されることに強い不満があったことから、こうした事態となったのでしよう。

ちなみに、この文書のなかで盛親は、引越し完了の期限を10日間としています。僅か10日で彦衛門が引越してきたのか。興味は尽きません。(野本)



長宗我部盛親判物 國澤彦衛門宛

※従わなければ「即時(に)成敗」とあります

民俗

吾郎兵衛池

1月のある日、近くの岡豊小学校の4年生が訪ねてきました。水に苦しんできた定林寺地区。大庄屋の森元吾郎兵衛が先頭に立って作った溜め池、吾郎兵衛池について勉強中とのこと。それは良いのですが、定林寺に水が少ないことを歌った当時の歌を発表会で歌いたいのだそうです。

一人娘を 定林寺へやるな

定林寺ひん田 水をくむ

池が出来たのは江戸時代初期ですから、節を調べるのは絶望的。しかたないので、歌の形式や内容から考えました。おそらく歌は七七五。悪口を歌い込むような歌といったら盆踊り歌の可能性もあります。『高知県の民謡』を調べると、ありました！七七五の南国市の盆踊り歌。とりあえず子ども達にそのテープを聞いてもらいました。

小学校で開催された岡豊フェスティバル。4年生の子ども達は盆踊りの節で見事にこの歌を歌いました。

地域の先人をつくり調べ、その成果をミュージカル仕立てで紹介する。その内容の深さと劇仕立ての面白さには学芸員も脱帽です。

(梅野)



岡豊小学校4年生発表の一幕 (2013. 1. 27)

第4回

岡豊山さくらまつり



4月6日(土)7日(日)開催

毎年好評いただいている岡豊山さくらまつりを今年も開催いたします。

今年も、夜間ライトアップをはじめ食1グランプリも開催。

食1グランプリでは、高知駅前旅広場会場と岡豊山会場の2会場で開催し、両会場間を無料のシャトルバスが運行します。

ぜひ、今年も見事な桜とグルメを味わいに岡豊山へお越し下さい。

(猪野)

第4回

長宗我部フェス

歴史にエンターテインメント、グルメまで2本立て歴史イベント
お楽しみ盛りだくさん



5月18日(土)19日(日)開催

長宗我部ファンの集いを今年も開催します。

戦国グッズの販売や長宗我部に関するイベント盛りだくさんです。

今年も長浜会場の長宗我部まつりとの連携により、パワーアップしたイベントとなります。(猪野)

発足!

いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会



9月23日の記念セミナー。同会会長の宗石教道氏の挨拶(奥物部ふれあいプラザ)

昨年9月、歴史、物部の方々、香美市教育委員会、県立大学、そして顧問にいざなぎ流の研究者を迎えて、いざなぎ流や地域の文化を調査・発信する会を発足しました。これは、香美市物部町の旧大栃高校に館蔵の民俗資料を保管していることに端を発したものです。9月23日の記念セミナーでは、第一人者の小松和彦先生の講演や保存会による舞神楽の公演があり、150人もの方が集まりました。11月24日にはそれを受けて東京の和光大学でシンポジウムが開催され、こちらも好評でした。そして春には再び物部で特別企画が開催されます。乞ご期待!(梅野)

旧大栃高校関連
いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会

関連企画

◆ものべ再発見 第1回

「新日本風土記 高知・神々と棲む村」
上映とNHKスタッフによるトーク

4月20日(土) 13:30~ 入場無料
会場=奥物部ふれあいプラザ

◆いざなぎ流の里・物部

映像・公演・体験、いざなぎ流尽くしの2日間!

5月5日(日) 11:00~・6日(月) 9:30~

会場=奥物部ふれあいプラザ・べふ峡温泉

参加費: 2日とも=1万3千円(宿泊費込)

1日目のみ=1千円

※くわしくは、当館へお問い合わせ下さい

◆第2回旧大栃高校民俗資料一般公開

四国民具研究会や猟師さんのお話など盛り沢山!

5月25日(土)・26日(日) 10:00~16:00

会場=旧大栃高校 入場無料

平成24年度高知・岡山文化交流事業Ⅰ

『特別展 刀 武士の魂
—備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣—』



A 4版 114頁
価格 1,000円
送料 340円

岡山県立博物館所蔵の備前の名刀（古刀）と一國兼光（國重文）など土佐ゆかりの刀剣を多数収録。

『高知県立歴史民俗資料館
研究紀要』第18号



土佐の出土銭貨2 須崎
市押岡土居の谷遺跡①
研究史
……………岡本 桂典

寺石正路資料調査報告Ⅲ
寺石正路自叙伝『燈下與
児談』上
……………野本 亮

〔資料調査員報告〕

浦戸湾の和船—和船の建
造を試みる方のために—
……………芝藤 敏彦

A 4版 102頁
価格 1,500円
送料 340円

○郵便振替口座番号 01600-2-38806
○加入者名 高知県立歴史民俗資料館
2冊以上のご注文はお問い合わせ下さい。

岡山県立歴史民俗資料館
平成25年3月31日 第81号
編集・発行 (公財)高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 高知県立歴史民俗資料館
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 通常期〔常設展〕大人(18才以上) 450円・団体(20人以上)360円
〔特別展・企画展常設展示〕500円
団体(20人以上)400円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展

会場:1階企画展示室

命の碑 —土佐の地震・津波碑—

平成25年 4月27日(土)～6月30日(日)

2011年(平成23年)3月11日午後2時46分頃、東北地方太平洋沖地震(M9)が発生しました。想像を絶する津波が東北地方を襲いました。土佐も南海地震による地震や津波の被害を過去に受けています。映像のない時代当時の人々は、口伝や文書、そして石に銘文を刻み、自分たちが受けた地震や津波の被害を未来に伝えようとした。

今回は、土佐の地震碑を拓本と写真で紹介しします。



土佐市宇佐の地震碑

関連行事

講演会

●電話等で要予約(定員100名) 観覧料要

6月8日(土) 14:00～16:00

「地震考古学からさぐる21世紀の巨大地震」

講師:産業技術総合研究所客員研究員 寒川 旭氏

講座

●電話等で要予約(定員100名) 観覧料要

6月1日(土) 13:00～16:00

テーマ 災害と石造文化財—阿波・土佐—

●阿波の地震碑と津波碑 13:00～14:00

講師:徳島市教育委員会 大川沙織氏

●土佐の地震碑と津波碑 14:00～15:00

講師:日本石仏協会理事 岡村庄造氏

●災害と石造文化財を語る 15:00～16:00

パネラー:岡村庄造氏・大川沙織氏 司会:当館学芸員 岡本桂典

展示室トーク

●予約不要・観覧券要(講師:担当学芸員)

5月11日(土) 14:00～15:00

5月25日(土) 14:00～15:00

特別展・企画展予告

夏の企画展

江戸時代の南国

—地域資料にみる人々のくらし—

平成25年7月27日(土)～9月1日(日)

秋の特別展

平成25年度 高知・岡山文化交流事業Ⅱ

備前焼 —薪と炎が織りなす土の美—

平成25年10月19日(土)～12月8日(日)

(展示作業に伴い3階総合展示室の臨時休室があります)



備前焼
緋禪大徳利
安土桃山期

歴民の日 5月3日(金・祝) 観覧料は無料です

- 長宗我部氏の武将になろう 9:00～12:00 13:00～16:00(予約不要)
- 折り紙でかわいい兜をつくろう 13:30～15:30(予約不要)
- 土佐民話の家☺ (お話 市原麟一郎さん) 14:00～15:00(要予約)